

「瓦版」



2022. January. 1

在仙台カンボジア王国名誉領事館

NO. 9

2020東京オリンピック・パラリンピック

開会式でカンボジアの選手団が入場した時、紫のシルクを使ったクメールスタイルの美しいユニホームがひと際目立ちました。これは2016年のリオ大会当時に美しいユニホームだと称える賞を頂きました。今回も同じデザインのもので採用され、2023年SEA Gamesでもこのユニホームを採用し、国家の象徴として繋げていくそうです。



オリンピック・パラリンピック出場選手

ヴァン・ヴォン選手（陸上男子 100m車いす T54 クラス／Time 14.21 秒／7 位）

3歳の時に患ったポリオの後遺症を持つ。今大会唯一のカンボジア人障がい選手となった。2006年から選手として訓練を始め、ASEANパラゲームでは2011年以降、金メダル1個、銀メダル1個、銅メダル2個を獲得する実力者だ。今大会では予選・決勝共に自己ベストを更新した。



8レーンについたヴァン・ヴォン選手

パェン・ソコン選手

（陸上男子 100m／Time 11.02 秒／18 位）

ソコン選手が短距離走の代表選手となったのは2014年。オリンピック終了後、8か月間の予定で日本で訓練中。9月25日に行われた第69回日本実業団対抗陸上競技選手権大会では、日本選手らとともに4×100mリレーに出場。2023年にカンボジアで開催されるSEA Gamesの強化選手。



晴海の選手村にて

ハェム・ポッチ選手

（競泳男子 50m自由形／Time 24.91 秒／52 位）

2015年頃から頭角を現し、ナショナルチームで活躍。2018年にJENESYS2018（東アジア青少年大交流計画）を通じて日本での水泳交流をした経験がある。次の目標は、2023年にプノンペンで開催される東南アジア競技大会（SEA Games）の出場権の獲得だ。

クン・ボンベッチモロコット選手（競泳女子 50m自由形／Time 29.42 秒／65 位）

元パラ水泳代表選手だった祖父の指導を受けてきた。水泳が好きという気持ちと祖父の全面的な支援があって、15歳にして国の代表に選ばれるまでに成長した。予選通過とはならなかったものの、自己ベストを更新することができた。試合が終わってすぐに祖父に電話したという。

アスリートを支えたサポーターたち

オリンピック・パラリンピックの主役はもちろんアスリート。しかし、その裏で色々な人が働いています。

コーチ ヘム・トンボンルーさん 日本の青年海外協力隊員が1966年に派遣され、水泳隊員の教え子だった故ヘム・トンさんの息子。父親から英才教育を受け、2007年から12年間、水泳の代表選手として活躍した。2008年の北京オリンピックの代表選手として参加している。現在は水泳ナショナルチームのコーチとして2020年オリンピックに参加している。

ボランティアスタッフ トル・ピッチファイさん 選手村でのボランティアスタッフとしてカンボジアから出場した選手らを世話した。「カンボジアの選手も他の選手と引けを取らないパフォーマンスをしていたと思います。オリンピックをめぐる環境について、直接観戦できなくても、オンラインで応援している選手やチームにLINEや絵文字で気持ちを伝えるシステムがありました。新型コロナウイルス感染の心配がなかったら、世界各国からの観光客・観戦客が東京にたくさん集まり、もっと盛大な大会になっていたと思います」

カンボジアのオリンピック出場歴			
開催年	開催国	開催都市	カンボジア人選手の参加競技
1956年	オーストラリア	メルボルン	馬術
1964年	日本	東京	ボクシング、自転車、カヌー、陸上
1972年	西ドイツ	ミュンヘン	ボクシング、水泳、幅跳び
1996年	米国	アトランタ	水泳、レスリング、マラソン、陸上
2000年	オーストラリア	シドニー	水泳、マラソン
2004年	ギリシャ	アテネ	水泳、陸上
2008年	中国	北京	水泳、マラソン、陸上
2012年	イギリス	ロンドン	水泳、柔道、テコンドー、陸上
2016年	ブラジル	リオデジャネイロ	水泳、テコンドー、レスリング
2021年	日本	東京	水泳、陸上

開館三年目に思いを寄せて…

当館は2019年7月26日の開館式、レセプションを経て8月1日にグランドオープン致しました。年明けより世界中を脅かすコロナ禍となり、日本に在住のカンボジア人・留学生・技能実習生に対し多大なるご支援を頂きましたことは、大使館共々感謝に堪えないところであります。

当初、大変と思えた運営にも軌道の兆しが見えてきました。これからはカンボジア王国と日本国の相互発展のため、更なる責務を果たしていく所存です。

今後とも、当名誉領事館へのご支援ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

在仙台カンボジア王国名誉領事館

名誉領事 田井 進



仙台あれこれ・・・

大橋眼科医院は、初代院長大橋豊四郎が1919年（大正8年）に、眼の手術を行う「大橋眼科病院」を開設したことに始まります。

大橋眼科医院開設100周年を記念して、第3代院長山口慶子は、地下鉄東西線薬師堂駅のロータリー前に「大橋記念薬師堂眼科クリニック」を新設し、小児眼科を中心とした診療を行っています。現在、本院の第4代院長は2006年より、私、山口克宏が務めております。

私は、2008年から東北大学眼科学臨床教授を拝命し、東北大学医学部5年生の臨床修練を大橋眼科医院にて担当しております。これにより、むしろ学生の方から医学の勉強に対するモチベーションをもらっているような感じです。

2021年秋には、在仙台カンボジア王国名誉領事館の名誉領事田井進様のご高配により、カンボジア王国の国立病院（首都プノンペンの病院を中核として全国に12か所）に向けた医療支援物資の寄贈ルートが開けました。

カンボジア王国の眼科医療水準は今のところ発展途上にあり、課題は多く残されております。カンボジア王国の人口は1,600万人ですが、全国に眼科医は50人程に限られているそうです。特に、地方での眼科の医療水準は低く、視力保護活動の充実が求められております。このことから、私は、自分が所属しているライオンズクラブ国際協会の伝統的な活動である視力保護を基軸とした奉仕を実践して行くことを考えました。



ひとつの活動が放つ光は小さな一灯かもしれませんが、今後それを繋ぎ合わせてカンボジアにおける眼科医療支援活動を行って参りたいと考えております。眼科医療支援物資が、カンボジア国内の眼科医療の向上に少しでも貢献することが望まれます。また、将来的には眼科医療分野で活躍する人材の育成のサポートまで奉仕活動を拡げていきたいと考えております。これからも、お力添えを賜りたく、どうぞ宜しくお願い致します。

医療法人社団暁宏会理事長

大橋眼科医院 院長 山口克宏

大橋眼科医院

宮城県仙台市青葉区中央2丁目9-34

☎ 022-223-3854

